



学年に応じたひとり一人の美化活動がふるさとの豊かな景観を守る

協会会長賞 石川県 津幡町立条南小学校

古くから干拓が行われ、県内一の規模を誇る河北潟の近くに位置する同校。恵まれた水郷で、野鳥の宝庫として知られているが、数十年前は水質悪化やポイ捨てごみが深刻だった。下水道整備を始め、町を挙げたさまざまな取り組みが奏功し徐々に改善されている。

2007年から児童が活動を開始した「河北潟調査隊」もそのひとつ。主に5年生が総合的な学習の時間に、河北潟の歴史や存在意義について、水質・動植物調査、農業の体験を通して学んでいる。農業体験では、牛がペットボトルや空き缶の破片を誤食する可能性を、水質検査では、目立ったごみが見られなくても、水質汚濁につながる測定結果が出る現実を問題視するなど、児童が身近な環境に目を向けるきっかけになった。

また、同校に隣接し、児童や住民に親しまれている「中条公園」では、2、4年生が散乱ごみの回収活動を実施している。公園内にある池は、用水路を通じて河北潟と行き来する魚が見られ、その調査などを行いながら、身近な自然を守るために自分たちが出来ることを考え、美化活動に励む。それでもなくならないごみのポイ捨てを痛感した児童は、散乱防止のポスターを作成し、公民館や店などに掲示を依頼。津幡町条南公民館の細山勝英館長は、「ごみがない町は犯罪も起きにくいと感じています」と児童の活躍を歓迎する。

こうして学年ごとに、ひとり一人が行動に移す実践力を養いながら迎える最終学年では、「親子資源回収」に取り組む。理科で学ぶ電気とエネルギーの有効利用の観点から、保護者と全校区をまわりながら資源のリサイクルに努める。さらに、今まで行ってきた河北潟調査隊や中条公園の美化活動にはどんな価値があったのかを、最後に振り返って児童が実感できるような教育に結びつけている。

津幡町はボートの町としても知られ、河北潟では毎夏、「つばたレガッタ」大会が開催される。同校の児童や教員もチームを組み毎年参加。そこで培われた連帯感や達成感が、ふるさとへの愛着を育み、豊かな景観維持に一役買っている。



石川県津幡町立条南（じょうなん）小学校

学校長：南 昭広（みなみ あきひろ）

児童数：484名（2019年11月末現在）

住所：石川県河北郡津幡町字太田ろ3

電話：076-288-8871

アクセス：IR いしかわ鉄道「津幡」駅からクルマで5分

写真上：河北潟調査隊で水質検査を行う5年生、  
2番目左：中条公園近くの用水路で散乱ごみや雑草を回収する4年生、右：ごみ散乱防止のポスターを作成し、地域の店へ掲示を依頼、3番目：6年生の資源ごみ回収、下：河北潟で開催されるつばたレガッタ大会に挑む児童チーム